



HARA MUSEUM ARC

青空は、太陽の反対側にある

原美術館／原六郎コレクション

第1期（春夏季） 2023年3月24日（金）—9月3日（日）

第2期（秋冬季） 2023年9月9日（土）—2024年1月8日（月・祝）

会場：原美術館 ARC

国宝「青磁下蕪花瓶」と「青磁袴腰香炉」が東京国立博物館からお里帰り
「青磁袴腰香炉」は明治期以来の一般公開、希少な「光悦謡本」は初公開

（「青磁下蕪花瓶」、「青磁袴腰香炉」の展示は2023年3月24日から4月26日まで）

来春、原美術館 ARC では、「青空は、太陽の反対側にある」展を開催いたします。作品制作や鑑賞のあり方の一端を表す言葉を当館の豊かな自然環境に求め、「青空は、太陽の反対側にある」と題し、「原美術館コレクション」（現代美術）と「原六郎コレクション」（東洋古美術）を春夏季と秋冬季の2期に分け展覧いたします。



【図版1】



【図版2】



【図版3】

■本展の見どころ

- ①当時の“女性アーティスト”の枠に囚われず、彫刻表現を拡張した久保田成子や、美術の伝統的価値に異を唱えた「反芸術」の作家など、当館が40余年の歳月をかけ収集した現代美術家の作品を紹介。
- ②明治の実業家・原六郎の収集品から、通常は東京国立博物館に寄託している国宝『青磁下蕪花瓶』と『青磁袴腰香炉』が里帰りする他、「光悦本」と呼ばれる希少な古活字本、『謡本』を展示。『青磁袴腰香炉』は明治期以来の一般公開、『謡本』は初公開。

■展覧会概要

雲ひとつない晴れた日に原美術館 ARC を訪れて最初に目にするもの——それは大きな青空です。青空と山々の深緑や紅葉、そして青空と端正な黒色の磯崎新建築とのコントラストは、恐らくここでしか見るこののできない感動の光景。しかしよく見ると、青空の青さにはわずかに濃淡があります。輝く太陽の周りは少し白っぽく、太陽から離れるにつれ青さが増してゆく。思い描く理想の青い空は太陽の反対側にあります。

本展では、「青空は、太陽の反対側にある」をキーフレーズに、自身の理想を求めて当時の美術的・社会的動向に背を向けた荒川修作や久保田成子、ギルバート&ジョージやヨーゼフ ボイスなど、国内外の作家の表現を展観します。

まず、現代美術ギャラリーA、B、Cでは、常識や慣習、既存の価値観に抗うことで、または視点を変えることで独自の地平を切り開く作家や、声高ではなくとも社会や美術の潮流に疑問を呈する作家、そして自身の心に深く潜ることで新たな表現を浮上させる作家の作品をご覧ください。

一方、特別展示室 観海庵には、鎖国の江戸期に西洋絵画や科学に傾倒した司馬江漢や、「朦朧体」と揶揄されながらも墨線を否定し、独自の表現を切り開いた横山大観の作品を展示します。また、通常は東京国立博物館に寄託している原六郎コレクション、『青磁下蕪花瓶』（国宝）と『青磁袴腰香炉』がお里帰り（展示期間：3月24日～4月26日）。どちらも爽やかな青空色が美しい名品です。さらに、「光悦本」と呼ばれる希少な古活字本である『謡本』を帖を替えながら通年展示。記録に残る限りでは、『青磁袴腰香炉』は明治45年に東京帝室博物館（現東京国立博物館）開催の特別展覧会「和漢青磁器」展以来の一般公開、『謡本』は初公開となります。

輝く太陽にあえて背を向け、順光に映し出される鮮やかな青空と原美術館 ARC をどうぞご堪能ください。

■出品作家（予定）

第1期

現代美術：艾未未（アイ ウェイウェイ）、安藤正子、イェルク インメンドルフ、河原温、リー キット、ギルバート&ジョージ、スラシ クソンウォン、佐藤時啓、須田悦弘、ルフィーノ タマヨ、ジャン デュビュッフェ、奈良美智、ゲオルク バゼリッツ、A.R. ペンク、ヨーゼフ ボイス、張洵（ジャン ホワン）、やなぎみわ、ジム ランビー、ロイ リキテンシュタイン、ジャン＝ピエール レイノーなど

古美術：『青磁下蕪花瓶』（国宝）、『青磁袴腰香炉』、『青磁水注花入』、『光悦謡本』、狩野派『花鳥図屏風』、『紫陽花蒔絵重箱』、本阿弥光悦『蝶下絵和歌巻(古今和歌集春歌上)』など

第2期

現代美術：カレル アペル、荒川修作、アルマン、アルマンド、アンディ ウォーホル、クレス オルデンバーグ、工藤哲巳、久保田成子、クリスト、ヴィレム デ クーニング、篠原有司男、セザール、アントニ タピエス、蜷川実花、エルネスト ネット、森村泰昌、ロバート メイプルソープ、マーク ロスコなど

古美術：司馬江漢『富嶽図』、横山大観『海辺曙色図』、『光悦謡本』、本阿弥光悦『蝶下絵和歌巻(古今和歌集春歌上)』など

■通年展示作品

アニッシュ カプーア『虚空』、草間彌生『ミラールーム（かぼちゃ）』、宮島達男『時の連鎖』、森村泰昌『輪舞（双子）』、奈良美智『My Drawing Room』、束芋『真夜中の海』、鈴木康広『日本列島のベンチ』など

■屋外作品

一昨年閉館した原美術館（東京）から4点の屋外作品を移設しました。併せてお楽しみください。

飯田善國『風の息吹き』（1980年）、関根伸夫『空相』（1980年）、多田美波『明暗 No.2』（1980年）、イサム ノグチ『物見台』（1959-81年）

■広報用図版

現代美術【第1期】



【図版4】



【図版5】



【図版6】



【図版7】

現代美術【第2期】



【図版8】



【図版9】

古美術【第1期】



【図版10】



【図版11】



【図版12】

古美術【第2期】



【図版13】



【図版14】

古美術【第1期・第2期】



【図版15】

通年展示



【図16】



【図17】



【図18】



【図19】

「My Drawing Room」内全作品貸出しのため、
第2期は作家による特別展示になります。

■広報用図版クレジット

【図版1】 奈良美智『Eve of Destruction』2006年 カンヴァスにアクリル絵具 117.0 x 91.0cm ©Yoshitomo Nara

【図版2】『青磁下蕪花瓶』南宋時代 磁器 撮影：上野則宏 ※第1期 前期展示（2023年3月24日から4月26日）

【図版3】『青磁袴腰香炉』年代不詳 磁器 ※第1期 前期展示（2023年3月24日から4月26日）

【図版4】 ギルバート&ジョージ『成熟』1986年 写真 241.3 x 151.1cm © Gilbert & George

【図版5】 ジャン＝ピエール レイノー『十字架』1972年 木と鉄にペイント 144.5 x 127.0 x 50.0cm © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 G3063

【図版6】 横尾忠則『戦後』1985年 セラミックにシルクスクリーン 240.0 x 240.0cm © Tadanori Yokoo

【図版7】 やなぎみわ『My Grandmothers: AI』2003年 ライトジェットプリント 180.0 x 240.0cm ©Miwa Yanagi

【図版8】 篠原有司男『シマウマとライオンのイチゴ合戦』1992年 カンヴァスにアクリル絵具 210.0 x 360.0cm © Ushio Shinohara
撮影：木暮伸也

【図版9】 蛭川実花『PLANT A TREE』2011年 C プリント 48.5 x 72.8cm ©mika ninagawa

【図版10】 狩野派『花鳥図屏風』（右隻）桃山～江戸時代 紙本墨画 六曲一双 163.3 x 383.4cm（三井寺旧日光院客殿障壁画）
※第1期 前期展示（2023年3月24日から6月中旬）

【図版11】『青磁水注花入』年代不詳 磁器 撮影：木暮伸也 ※第1期 前期展示（2023年3月24日から6月中旬）

【図版12】『紫陽花蒔絵重箱』江戸時代 五段重箱 26.5 x 28.5 x 39.8cm ※第1期 後期展示（2023年6月中旬から9月3日）

【図版13】 司馬江漢『富嶽図』江戸時代 絹本着色 142.2 x 81.1cm ※第2期展示予定

【図版14】 横山大観『海辺曙色図』明治時代 絹本着色 127.2 x 40.8cm ※第2期展示予定

【図版15】 本阿弥光悦『蝶下絵和歌巻(古今和歌集春歌上)』（部分）江戸時代紙本金銀泥絵墨書 一巻 33.2 x 372.2cm

【図版16】 奈良美智『My Drawing Room』2004/2021年 312.0 x 200.5 x 448.0cm ©Yoshitomo Nara 撮影：木暮伸也
※「My Drawing Room」内全作品貸出しのため、第2期は作家による特別展示になります。

【図版17】 鈴木康広『日本列島のベンチ』2014/2021年 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki 撮影：木暮伸也

【図版18】 森村泰昌『輪舞（双子）』1994/2021年 ミクストメディア ©Yasumasa Morimura 撮影：木暮伸也

【図版19】 草間彌生『ミラールーム（かぼちゃ）』1991/1992年 ミクストメディア 本体 200.0 x 200.0 x 200.0 cm ©Yayoi Kusama
撮影：木暮伸也

※【図版5】ジャン＝ピエール レイノー『十字架』、【図版19】草間彌生『ミラールーム（かぼちゃ）』の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体からの著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

■原美術館 ARC について



【図版 20】ジャン=ミシェル オトニエル
[Kokoro] 2009年



【図版 21】特別展示室 観海庵 内観



【図版 22】原美術館 ARC 外観



【図版 23】開架式収蔵庫



【図版 24】カフェ ダール内観



【図版 25】ザ・ミュージアムショップ内観

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館（東京・品川。1979-2021）と別館ハラ ミュージアム アーク（群馬・渋川。1988年開館）の活動を集約し、2021年4月に始動した美術館です。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

当館の収蔵作品「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時から収集した1950年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで、多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎（1842-1933）が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリーAと、前庭に向かって両翼を広げるギャラリーB、Cは、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺（園城寺）の旧日光院客殿の書院造に想を得た「観海庵」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間。広々とした庭ではアンディ ウォーホルやオラファー エリアソンなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、年数回の庫内のガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、伊香保グリーン牧場オリジナルアイスクリームなどをご用意。展示作品をイメージしてスタッフが考案した「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、展覧会カタログや関連書籍から、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介しますなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりの場所です。

【図版 20】【図版 22】【図版 25】撮影：木暮伸也 【図版 21】【図版 23】撮影：斎藤さだむ

■開催要項

展覧会名 「青空は、太陽の反対側にある：原美術館／原六郎コレクション」

会期 第1期（春夏季） 2023年3月24日（金）－9月3日（日）

* 『青磁下蕪花瓶』および『青磁袴腰香炉』の展示は2023年3月24日－4月26日

第2期（秋冬季） 2023年9月9日（土）－2024年1月8日（月・祝）

* 特別展示室・観海庵は会期中展示替えがあります

主催・会場 原美術館 ARC

開館時間 9:30 am－4:30 pm（入館は4:00 pmまで）

休館日 木曜日（祝日を除く）、1月1日、8月中無休 *2024年1月9日（火）～3月中旬まで冬季休館

入館料 一般1,800円（1,500）、大高生1,000円（700円）、小中生800円（500円）*カッコ内は前売り料金

・原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内の小中学生の入館無料、各種割引あり。

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 E-mail: arc@haramuseum.or.jp ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

■交通案内

・JR 上越／吾妻線「渋川駅」（上越／北陸新幹線利用の場合は「高崎駅」で上越／吾妻線に乗り換え）より、関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き（3番のりば）にて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩7分。または「渋川駅」よりタクシーで約10分。

・お車の場合、関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より8 km、約15分。（無料駐車場50台、大型バス駐車場2台）

【JR 乗換案内例】 *2022年12月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線の場合（平日・土休日とも）

・東京駅 7:52 発<はくたか 553 号>→高崎駅 8:42 着／8:53 発 [吾妻線 大前行] →渋川駅 9:19 着／9:25 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] →グリーン牧場前 9:40 着

・東京駅 10:40 発<とき 317 号>→高崎駅 11:32 着／11:44 発 [吾妻線 長野原草津口行] →渋川駅 12:08 着／12:14 発 関越交通バス [伊香保温泉行] →グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津」の場合（草津 31 号は土休日のみ運行）

・上野駅 9:00 発<草津 31 号>→渋川駅 10:38 着／10:55 発 関越交通バス [伊香保温泉行] →グリーン牧場前 11:10 着

・上野駅 10:00 発<草津 1 号>→渋川駅 11:36 着／11:42 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] →グリーン牧場前 11:53 着

・上野駅 12:10 発<草津 3 号>→渋川駅 13:50 着／13:55 発 関越交通バス [伊香保榛名口行] →グリーン牧場前 14:06 着

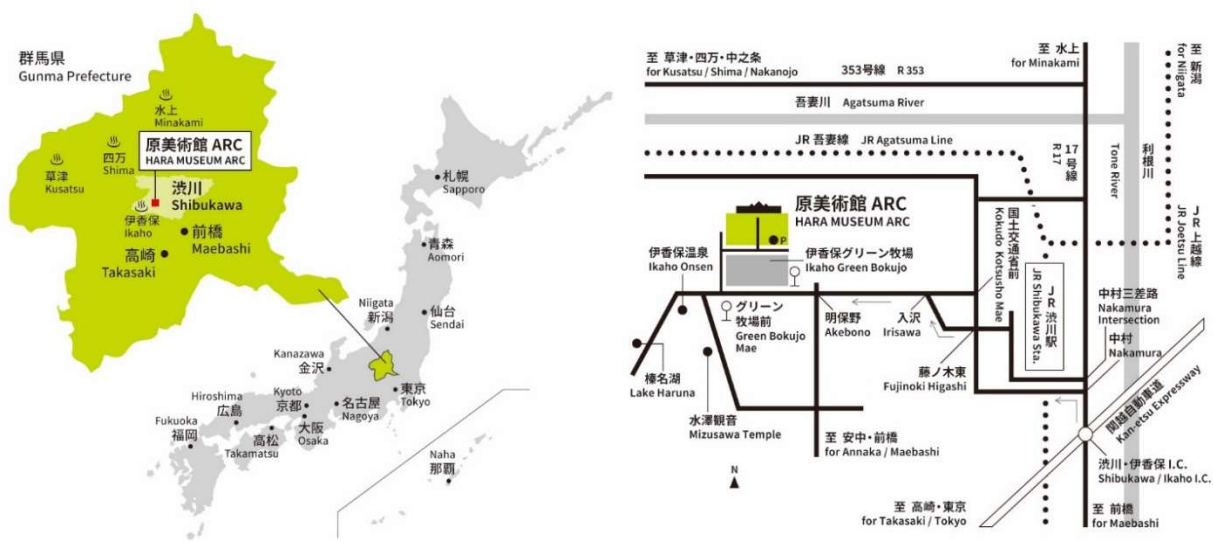
【高速バス／関越交通株式会社 伊香保四万温泉号】 ※2022年11月1日から2023年5月7日までの期間限定

東京駅・川越駅⇄渋川駅・伊香保グリーン牧場・伊香保・草津温泉

*詳細は関越交通社のサイト <https://kan-etsu.net/publics/index/53/> でご確認ください。

【高速バス／JRバス上州ゆめぐり号】

新宿駅⇄渋川駅・伊香保・草津温泉 *詳細はジェイアールバス関東のサイト <http://www.jrbuskanto.co.jp/> でご確認ください。



展覧会「青空は、太陽の反対側にある」担当学芸員：坪内
 取材・図版提供など広報に関するお問い合わせ：原美術館 ARC 広報 山川、野田
 E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449 Twitter: @haramuseum_arc Instagram: haramuseumarc